

107研究会 通信

(平成 27 年 8 月 5 日 (水) 平成 27 年度 第 2 号)

編集発行：岩手県農林水産部県産米戦略室

「岩手 107 号」の生育状況や、デビューに向けた取組をお知らせします。

「岩手 107 号」は平成 28 年秋にデビューする岩手県が開発した、オリジナル品種です。107 (いちまるなな) 研究会通信は、「岩手 107 号」のモデル農家等で構成する「岩手 107 号栽培研究会」の活動等をお伝えします。

「岩手 107 号」栽培モデルほ場の紹介

●遠野市のモデルほ場の生育状況

遠野市のモデルほ場は、市の中心部から北西部の遠野市宮守町(旧宮守村)に設置されています。モデルほ場を担当する農事組合法人宮守川上流生産組合は、地域ぐるみで農業に取り組む「一集落一農場」構想に基づき稲作等の共同化、新たな園芸品目導入や、ジュース・どぶろくなど加工品の製造販売にも取り組んでいます。

岩手 107 号は、5 月 13 日に田植えされ、その後の当法人の日々の栽培管理で順調に生育しています。7 月 29 日には、穂が出て花が咲く様子が見られました。稲作を担当する理事の浅沼さんは「田植えをした 5 月は雨が少なく心配したが、その後は生育も順調で安心している。1 本 1 本の茎が太く丈夫な印象がある。品種の特性どおり葉の色は淡いと感じていたが、中干し後(※)、葉の色が濃くなってきたと感じている。」と栽培した感想を述べられています。

※根を丈夫にするため一定期間、水を切る栽培管理



取材に対応する、左手前：多田組合長、左奥：浅沼理事、右奥：大石事務局長、右手前：県担当者



7 月 29 日、穂が出始め花が咲く岩手 107 号の様子

「岩手 107 号栽培研究会」の活動

●第 2 回研究会を開催しました。

平成 27 年 7 月 7 日(火)に第 2 回研究会を開催しました。この日は最初に、岩手 107 号栽培モデルほ場担当農家の皆さんから、これまでの生育経過や栽培した感想などの意見交換を行いました。

つづいて、農業研センターの試験ほ場で、実際に岩手 107 号を見て、今後の追肥など、美味しいお米づくりに向けた栽培管理について研修しました。次回は適期収穫について研修します。



平成 28 年デビューに向けた種子の準備

●県農業研究センターでの種子生産。

平成 28 年のデビューに向けて、県農業研究センターで種子生産を行っています。

通常の種子供給は、農業研究センターが原々種、原種の順に生産し、これを指定採種ほ担当農家へ供給、ここで生産された採種ほ産種子が一般栽培用の種子となる流れですが、出来るだけ早く岩手 107 号を届けるため、農業研究センターが、直接種子生産しているものです。

平成 28 年の一般栽培 100ha 分の種子生産のため、農業研究センターの研究員が、農家の期待に応えるべく、厳正な栽培管理に日々臨んでいます。

「岩手 107 号」生育情報

●生育順調です！

農業研究センターの岩手 107 号の試験区の 7 月 24 日現在の生育状況は、草丈、茎数ともあきたこまちより多く、順調です。試験区の調査結果は、良質・良食味栽培に向けた基準づくりに活かされます。

◆草丈 74.9 cm(104%)

◆茎数 28.2 本/株(105%)

※ ()内は、あきたこまちとの対比です。

※ 茎数で生育の良否が、わかります。



農業研究センター (8 月 4 日左側が岩手 107 号、右があきたこまち)

ありがとうございました「岩手 107 号」新名称募集

●新名称の募集を終了しました。

岩手 107 号の新名称、たくさんのご応募ありがとうございました。おかげさまで 8,000 件を超える応募がありました。

決定した新名称は、11 月に発表する予定です。

本紙掲載事項に係るお問い合わせ先

県産米戦略室 TEL019-629-5715

E-mail AF0016@pref.iwate.jp

あとがき

「岩手 107 号」は、天候にも恵まれ、無事に出穂となりました。稲の花は、二つに割れた籽とその間から、おしべが顔を覗かせる、小さくて、とてもかわいらしい花です。

稲の穂に 小さな花火 咲いている(編集担当:櫻田)